## ■ポーランド: Energa、再エネ導入拡大に向けた電力貯蔵設備を設置へ

2017年6月9日付報道によると、ポーランドの大手電力会社 Energa は 2019年までに国内最大の電力貯蔵設備(蓄電池)の建設を計画している。この設備はポーランド最北部ポモージェ県にあるバルト海に面した風力発電所の近くに設置される予定で、設備容量6,000kW、貯蔵容量2.7万kWhとなる。Energa によれば、蓄電池としてリチウムイオンと鉛酸の2種類を使用する。2017年3月、日本の新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)とポーランドのエネルギー省は日本の系統安定化や蓄電の技術を活用し、電力系統の安定運用を実現しつつ、再生可能エネルギーの導入拡大を支援する基本協定書を締結した。ポーランドの送電系統運用者(PSE)と日立・日立化成工業は再生可能エネルギー導入拡大に向けたスマートグリッド実証事業を共同実施することになっており、今回の電力貯蔵設備の導入はその一環となる。